

願成寺報

平成二十八年十一月十九日

〒四四〇・〇八二二 豊橋市東新町二十八番地

☎ 〇五三二・五二・九六〇一

報恩講のご案内

春秋のお彼岸に比べて報恩講のお参りが少ないままです。お供物やお飾りにも手間を掛けて準備します。法要は近隣のお寺様が駆けつけて下さり、盛大に勤めます。お斎(食事)も精進ですが豪華に作ります。美味しいです。法話も多彩な方をお願いしていきます。真宗寺院で最も大切な行事です。今年も雅楽もお願いしました。餅つき会も楽しいです、ご参加下さい。



十一月二十九日(火) 午後一時 餅つき会

十二月三日(土) 午後一時半 法要・法話 岡崎市浄泉寺 戸田信行師

午後四時 お非時(お雑煮)

午後五時 法要・法話 住職

四日(日) 午前十時 法要・法話 渡辺哲夫先生

午前十二時 お斎(昼食)

午後一時半 法要・法話 渡辺哲夫先生

ご縁を慶ぶ達人 — 渡辺哲夫先生 —

民生委員を拝命すると、様々な講演を聞く機会に恵まれます。その中で、渡辺先生のお話はいつも楽しく示唆に富んでいます。当山でもお話頂きたいと願っておりました。

長く福祉に携われ、より深刻な状況で真価を発揮されました。他人に接する上で、暖かい眼差しを忘れない姿勢が力強く、問題解決のためにする構想・行動力と工夫に脱帽です。

それらは『老いの風景』など、沢山の著作にも顕れています。問題の中に本質を見抜き、悲しみを嫌わず慶び過ごす人。今そこにあるご縁を慶ぶ達人。

ことの善悪に拘り・憤り・不信に沈み、今を慶べない私達ですが、視点や立ち位置を翻すならば、問題が問題でなくなり、先生の力強く暖かい眼差しは何に支えられているのだろうか？ お話の息づかいの中に、その秘密が顕れるかも知れません。いつも楽しく面白い先生です。是非、ご聴聞下さい。

弥陀ノ智願海水ニ 他カノ信水イリヌレバ
眞実報土ノナラヒニハ 煩惱菩提一味ナリ

《正像末法和讃・親鸞聖人》



渡辺哲夫先生 プロフィール

- * 昭和 25 年 郡上八幡生まれ。
- * 福祉事務所/児童相談所 / 児童自立支援施設 / 病院ケスワ-カ-/他 に勤務。
- * 岐阜県ソーシャルワ-カ-協会 会長 / 日本福祉大学 中央福祉専門学校専任教員 / NHK 文化センター岐阜講師 等歴任。

【著書】

- 『老いの風景』シリーズ
 - 『忙中漢話』
 - 『男の日傘』
 - 『認知症ストーリーケア』
— 中日新聞社 —
- 他多数

● 正信偈ノート ⑱ ・曇鸞章 I

書き直しを恐れず、今、思い浮かぶところを書き留める

本師曇鸞梁天子 常向鸞処菩薩礼

黄色の勤行本の

三十二ページから

三蔵流支授浄教 梵焼仙経帰楽邦
天親菩薩論註解 報土因果顕誓願

本師曇鸞は、梁の天子、常に鸞の処に向かいて菩薩と礼し奉る。

三蔵流支、浄教を授けしかば、仙経を梵焼して楽邦に帰し給いき。

天親菩薩の『論』を註解して、報土の因果を誓願に顕す。

・曇鸞大師 七高僧の第三祖 中国全土に尊崇者あり (注筆者)

・梁の天子 南北朝時代の梁の初代皇帝 武帝のこと

仏教を信奉した 達磨大師とも親交あり (注筆者)

・三蔵流支 北インドの訳経僧 菩提流支のこと

天親菩薩の『浄土論』他 訳出經典多数 (注筆者)

・浄教 『観無量寿経』か『浄土論』らしい (注筆者)

・仙経 陶弘景から授かった不老長生の秘術の書 (注筆者)

・楽邦 無量寿・阿弥陀浄土とその教え (注筆者)

・『論』 『浄土論』 (注筆者)

・報土 阿弥陀浄土の徳と力用 (はたらき) (注筆者)

・誓願 阿弥陀因位 (法蔵菩薩) の四十八願 (注筆者)

〈浄土真宗本願寺派・注釈版聖典より〉

・曇鸞大師

七高僧の第三祖。仏滅一千年（六世紀）ごろに活躍した僧。中

国山西省雁門の生まれ。十五歳ごろ学僧となり竜樹の中觀思想を

中心に広く大乘經典他を研鑽した。

大部の『大集経』の注釈を始めるが、病に

倒れる。注釈完成の為に長生を求め、遠く南

中国の道士陶弘景を訪れ、仙経を授かった。



帰途洛陽にて菩提流支に会い浄土教に帰し、授かった仙経を焼き捨てたとされる。その後、玄中寺他に住み、庶民に教えを広め、六十七歳で没した。中国浄土教の開祖とされる。

主な著作

『往生論註』

天親菩薩の『浄土論』の註釈書（上下二巻）

他力の救済を顕した書で浄土教の基礎となる

『浄土論註』『論註』『註論』とも略される

『讚阿弥陀仏偈』

『大経』に依り、阿弥陀仏とその聖衆・国土

の徳を讚嘆した七言一句 三百九十句の偈頌

・菩提流支とのエピソード

「しくじり先生」というテレビ番組がありますが、失敗した話は、今当に失敗している人の福音になります。尊敬されている大徳の失敗ならより大きな力となるでしょう。

曇鸞大師が手にした不老長生の仙経を自慢したとき、菩提流支は地に唾を吐き「流転の寿命を少しばかり伸ばすことに意味はない」と切り捨てました。そして不死（無量寿）の法として浄教を授けます。大師、五十余歳の出来事でビックリされたと思います。

深く反省し、苦勞して手に入れた大切な仙経を焼き捨てます。

大師の面目躍如たる場面ですが、考えさせられます。浄土教（他力の教え）は、捨てる・手放すことと繋がっているようです。

・誓願による救い

「あなたには弥陀の誓願がはたらいっているのですよ」と聞いて、直ちに救われる人は少ないでしょう。けれど、そのはたらきを感じ得し、慶んで歩まれた姿があれば、それは力になると思います。高僧方の言説を戴く意味はここにあります。

理論理屈は人を救いません。言説を生きた姿と戴きましよう。救いは、同じ迷いを生きる方々の姿の中にのみあるのです。

創作・曇鸞大師の再生

大師は三年間を費やし往復三千キロに及ぶ長旅の途中で、その成果である仙經十巻を火に投じながら思っていました。他にも捨てるべきものが沢山ある。

暗く息苦しかった山村の暮らし。

五台山・大浮図寺を訪ねた時の開放感と出家の決意。

大乘經典を聞くトキメキ、友を論破する優越感。

強い身体と社会的名声への渴望。

見聞きすることが新しい旅の風景。

梁の皇帝や有名人である陶隱居に認められた喜び。

長短・大小・優劣・善悪・悲喜…

全て迷いの中の出来事であった。

菩提流支先生：南無阿彌陀仏。

迷いを迷いと教える仏・報土・力用（はたらき）は確かにある。

それを確かめるために故郷へ帰ろう。

出家を打ち明けた時、母は暗く悲しい顔でしたが、

心に凍りついていたその顔に光が差しました。

母に報いるために求めた名声であったが、もう必要はない。

蹴落とした友が待っていてくれていく気がします。

旅を助けてくれた沢山の人の顔。

その後、大師は石壁谷の玄中寺に住み、田舎の人々の中に入って、

浄土の教えを勧める生活を深く慶びながら過ごし書を著しました。

迷いの相は様々あるが、全て本願の力用の中なのだ。

全てのいのちは弥陀に繋がる兄弟である。

ただこの念仏の道を一筋に共に歩もう。疑うべきことは何もない。

『七高僧ものがたり』東本願寺等を参考に創作

月例会のお誘い

く童心にかえろうく

・字手紙教室（十一月）報告

隣の豊陽印刷の森亨先生をお招きして、開催しました。

「上手く書こうとする心を捨てて、自分の殻を破るように、自由に描いて下さい」（先生談）

初めにのようにウズマキを描きました。

自由を手に入れる為の準備運動らしい…

楽しくなってきました。

丸を意識して文字を描きます。

殻を破るために、大きさや並び方を不揃いにしたり、書き順を変えたり…

殻を破る工夫を教わりますが、難しい。

上手く書こうとする煩惱の深さを思いました。

それでも楽しそうな先生に褒められて、

皆で楽しく描きました。

先生、来年もお願いします。

先生、来年もお願いします。

・消しゴムハンコ教室（十二月）お誘い

来月は正太寺・悟道先生の消しゴムハンコ教室です。

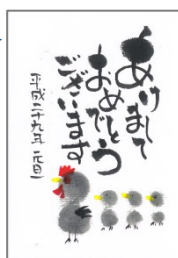
きつと童心にかえって楽しいです。

年賀状の準備になるかも知れません。

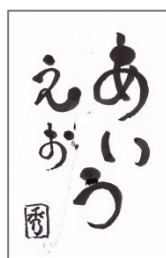
お茶菓子も美味しいです。

十二月一日午後三時く参加費五百円

寺までお申し込み下さい



先生の作品
パパッと描
かれました
流石です



行事予定 平成二十九年

スケジュール帳に転載して、是非、ご予定下さい

一月 一日 (日・祝) 修正会

お正月のお勤めです
簡単なお節を準備します
午前十一時

三月 二十 日 (月・祝) 春季彼岸・永代経法会 (成田屋紫蝶 師)

落語と法話で楽しく過ごします
お非時 (昼食) あり
午前十時

八月 十五 日 (火) お盆・歓喜絵 (住職)

法要・法話で亡き人を偲びます
軽食・花火あり
午後六時

九月 二十 日 (日) 秋季彼岸・永代経法会 (戸田恵信 師)

お馴染みの先生の情熱的な法話です
お非時 (昼食) あり
午前十時

十一月 三日 (金・祝) 本山納骨堂法会・団体参拝

本山へ貸切バスにて団体参拝します
午前七時ごろ集合

十二月 二 日 (土)

報恩講

御開山聖人御恩に報いる法会です
お非時 (昼食) あり
二日 午後一時半から
三日 午前十時から

二〇二〇年十二月

毎月一日

月例会

毎月一日
午後二時 日時変更の場合があります、
寺にご確認下さい

後記

○ 「僕はみち子さんを幸せにする自信はないけれど、

僕が幸せになる自信はあります」

釣りバカ日誌の浜ちゃんのプロポーズの言葉です。

私はこの場面を一昨年の本山団体参拝の帰りのバスの中で観たのですが、その時のガイドさんが新米で、頼りなくて、乗客全員でハラハラして見守りました。それでも彼女は嬉々として働いていて、最後に「皆さんとご一緒できて幸せでした」と挨拶した時、その言葉が浜ちゃんと重なり、ふきだしてしまいました。

あなたのバスに乗れて私も幸せでした。

それは納骨堂法会への参拝でした。皆、別れた人を想い「あなたに遇えて幸せでした」と確認したことでしょう。

『他力』を難しく議論することはいくらでも出来ます。けれど、本当はもっと単純で、みち子さんの背後に仏様を観る、そんな事で良いような気がします。

自分や誰かを「幸せにする」はなかなか叶いませんが、その力んだ心が解けたとき、自分の思いを超えた次元で、自然に、「幸せである」と気付くのでしょうか。

「実はみち子さんに囲まれていた」と目覚められたらいいですね。

○ 今年の団体参拝ではウォーターボーイズを観て「若者は思い通りにならない場面で成長する」と確認しました。

私はもう齡をとり過ぎて成長は期待できませんが、「深まる」ということはあるようです。

思い通りにならない場面で深まるいのち。

その只中では難しいですが、すこし離れて念仏する時、深まっていた事に気が付くのでしょうか。

人生は出逢いで広がり、別れで深まる。(作者不詳)

こんな言葉にも他力の匂いを感じます。